

令和5年8月3日(木)  
令和5年度保健師中央会議  
資料11

## HPVワクチン接種の現状について

令和5年8月3日(木)

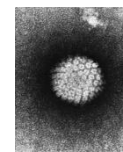
厚生労働省 健康局 予防接種担当参事官室

ワクチンシステム高度化推進専門官 小畠啓史

# HPVワクチンに関するこれまでの経緯

## 【子宮頸がんについて】

- 日本で年間約1.1万人が罹患、約2,900人が死亡。また、25～40歳までの女性でがん死亡の第2位。
- ほとんどの子宮頸がんはH P V（ヒトパピローマウイルス）への感染が原因。



ヒトパピローマウイルス

## 【HPVワクチンについて】

- HPVワクチンは、HPVへの感染を防ぐことで、子宮頸がんの罹患を予防。
  - HPVワクチンは、子宮頸がんの原因の50～70%を占める2つのタイプ（HPV16型と18型）のウイルスの感染を防ぐ（2価・4価）。
  - 小学校6年～高校1年相当の女子に対し定期接種が行われている（標準的な接種期間：中学校1年(13歳になる学年)の女子）。
- ※ 子宮頸がんの予防に当たっては、併せてがん検診を受診することが重要。

## 【海外の状況】

- 世界保健機関（WHO）が接種を推奨。
- 米、英、独、仏等の先進各国において公的接種として位置づけられている。

平成22年11月26日～ 平成25年3月31日	平成22、23年度補正予算により、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業（基金）を実施
平成25年4月1日	予防接種法の一部を改正する法律が施行され、HPVワクチンの定期接種が開始された
⇒ 以降、疼痛又は運動障害を中心とした多様な症状が報告され、マスコミ等で多く報道された	
平成25年6月14日	厚生労働省の審議会※で、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではない」とされ、 <b>積極的勧奨差し控え</b> （厚生労働省健康局長通知） ※ 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会と薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会の合同開催
⇒ 以降、	<div style="border: 1px dashed yellow; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① HPVワクチンのリスク（安全性）とベネフィット（有効性）を整理</li> <li>② HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援をどう進めていくのか</li> <li>③ HPVワクチンの安全性・有効性等に関する情報提供をどう進めていくのか</li> </ul> </div> <p style="text-align: right;">審議会において検討</p>
令和4年4月1日	審議会の結論をふまえ、 <b>積極的勧奨の再開及び接種の機会を逃した方に対するキャッチアップ接種を開始</b>

# 令和4年度から実施しているHPVワクチンに関する施策

## 1. 積極的勧奨（予診票の個別送付等）の再開

- 接種実施医療機関における接種体制の整備等を進め、**令和4年度から積極的勧奨（予診票の個別送付等）を再開。**
- 今後、HPVワクチンの定期接種を進めるに当たっては、接種後の症状に対する相談支援体制・医療体制等の維持・確保が重要。厚生労働省から、自治体に対して、関係機関（自治体、協力医療機関・地域の医療機関）に求められる役割についてお知らせしており、従来からの連携の枠組みを再活性化・強化。
  - ➡ 接種を希望する方に対し、適切かつ十分な情報提供、円滑な接種、接種後に体調の変化等が生じた方への必要な支援が行われるような体制を構築。

## 2. キャッチアップ接種

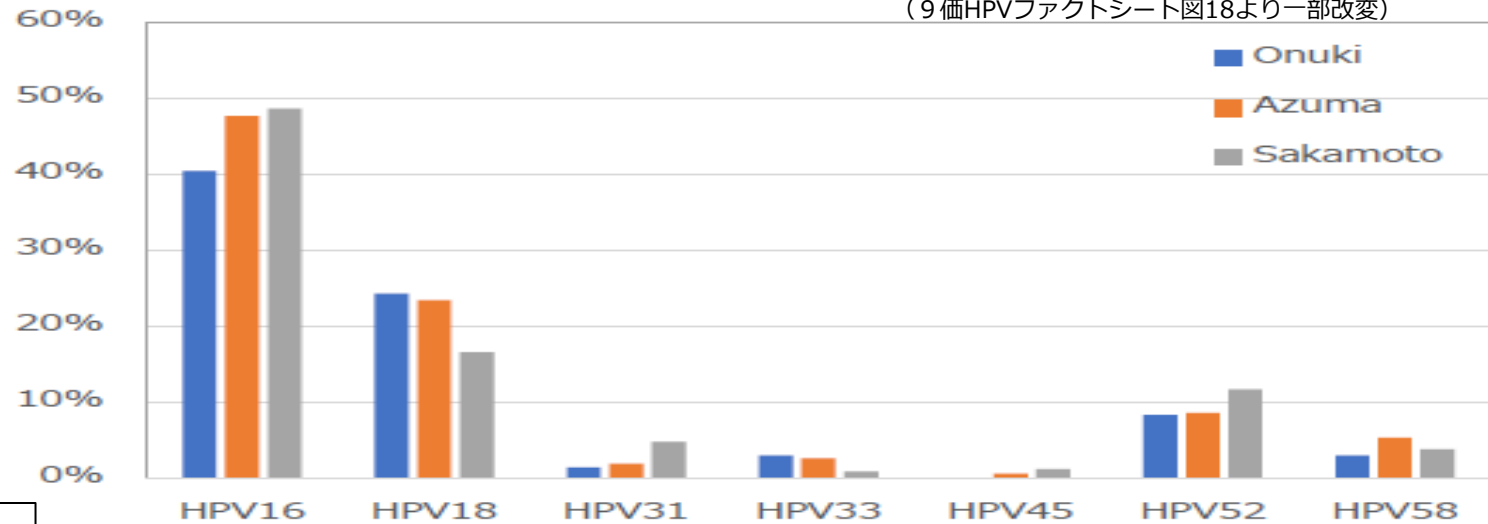
- HPVワクチンの積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方に対して公平な接種機会を確保する観点から、積極的な勧奨を差し控えている間に定期接種の対象であった**9学年（H9年度生まれ～H17年度生まれ）すべてをキャッチアップ接種の対象**とする。 ※令和5年度からはH18年度生まれの女性もキャッチアップ接種の対象
- 接種対象者の接種機会の確保の観点や、地方自治体の準備、医療機関における接種体制等の観点を踏まえ、**キャッチアップ接種の期間は3年間**とする。
- 予防接種法施行令を改正し、**令和4年4月1日施行。**

# 9価HPVワクチンについて

ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症を予防する9価HPVワクチンは、子宮頸がんの発生に関連するHPVのうち、現在定期接種で使用されている2価・4価HPVワクチンよりも多くの、9種類の遺伝子型を標的としており、子宮頸がん及びその前がん病変の罹患率の減少、子宮頸がんの死亡率の減少が期待される。

## 日本人女性の子宮頸がんにおけるHPV 遺伝子型の分布

(9価HPVファクトシート図18より一部改変)



尖圭コンジローマ (※)

HPV 6 HPV 11

2価ワクチン

4価ワクチン

64.9~71.2%を標的

9価ワクチン

81.0~90.7%を標的

※ HPV6、11型は、尖圭コンジローマの主な原因となる遺伝子型である。

# 9 価HPVワクチンの定期接種化の検討の経緯

第41回予防接種・ワクチン分科会  
(令和4年11月18日) 資料1  
一部改変

- 平成22年11月 子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業開始。
- 平成25年4月 ヒトパピローマウイルス感染症に対するHPVワクチン（2価・4価）の定期接種開始。
- 令和2年7月 **9価HPVワクチンが製造販売承認された。**
- 令和2年8月 第16回ワクチン評価に関する小委員会において、9価HPVワクチンを定期接種で使用する事の是非に関する検討が開始され、国立感染症研究所に9価HPVワクチンに関するファクトシートの作成を依頼。
- 令和3年1月 **「9価ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン ファクトシート」が提出された。**
- 令和3年4月 第17回・第18回ワクチン評価に関する小委員会において、ファクトシートに基づき、
- 令和4年3月 **9価HPVワクチンの定期接種化に向けて検討を要する論点の整理及び議論が行われた。**
- 令和4年8月 第19回ワクチン評価に関する小委員会において、**9価定期接種化は技術的な問題はないと結論付けられ、議論の取りまとめ文書（基本方針部会への報告書）が作成された。**
- 令和4年10月・11月 第49回・第50回基本方針部会において、**9価の定期接種化に向けて具体的な議論が行われ、令和5年度からの定期接種化等について了承された。**
- 令和5年2月 第52回基本方針部会において、9価HPVワクチンを定期接種に用いるにあたっての接種方法の具体的な考え方について検討が行われた。
- 令和5年3月 15歳未満の女子について合計2回の接種で完了となる用法・用量が承認される方針となったことを受け、第53回基本方針部会において、**2回接種についても3回接種とあわせて令和5年度から定期接種に導入することが了承された。**
- 令和5年4月 9価HPVワクチンの定期接種開始。

# HPVワクチンの情報提供について

厚生労働省HPでは、HPVワクチンに関する情報をわかりやすくまとめたリーフレットを公開しています。  
9価HPVワクチンの定期接種化を踏まえ、新しいリーフレットの作成や、既存リーフレットの改訂を行いました。

## <新規リーフレット>

令和5(2023)年4月より  
**9価の「HPVワクチン」を  
公費で接種できるようになりました**  
「子宮頸がん」で苦しまないために、今からできることがあります

Q 「HPVワクチン」とはなんですか？  
A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9価のワクチン（9価ワクチン）と、4価のワクチン（4価ワクチン）があります。どのワクチンも接種する場合は、原則1回接種が必要です。

Q 9価のHPVワクチン（9価ワクチン）とは、どのようなワクチンですか？  
A HPVにはいくつもの種類（型）があり、9価ワクチンには、21種類のHPVの感染を防ぐワクチンです。その中でも、子宮頸がんの原因の約90～99%を占める、7種類のHPVの感染を防ぐことができます。

Q 9価ワクチンの接種後に副反応はありますか？  
A 9価ワクチンの接種後には、右表の副反応が起こることがあります。接種後に接種部位が赤くなる症状が現れたり、またはワクチンを受けた接種部位の皮膚がむずかしくなることがあります。

**あなたと関係のある“がん”があります**

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,000人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が増加傾向にあります。患者さん200名から40歳代までのがんの診療で子宮を失ってしまう状態（摘出）が増えてきました。患者さん1,000人います。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡原因は、子宮頸がんは1位です。
- HPVの感染をきっかけとして、母体の子宮頸がんを発症する期間が短縮されていますが、ワクチン接種によるHPV感染もありません。子宮頸がんを早期に発見し治療すれば、約20歳以上から、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

厚生労働省

9価HPVワクチン接種のお知らせ  
(定期接種版)

令和5(2023)年4月より  
**「HPVワクチン」の接種の機会を逃した方も  
9価のワクチンを公費で接種できるようになりました**  
※接種費用を自己負担する方については、お住まいの自治体にお問い合わせください。

Q 「HPVワクチン」とはなんですか？  
A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9価のワクチン（9価ワクチン）と、4価のワクチン（4価ワクチン）があります。どのワクチンも接種する場合は、原則1回接種が必要です。

Q 9価のHPVワクチン（9価ワクチン）とは、どのようなワクチンですか？  
A HPVにはいくつもの種類（型）があり、9価ワクチンには、21種類のHPVの感染を防ぐワクチンです。その中でも、子宮頸がんの原因の約90～99%を占める、7種類のHPVの感染を防ぐことができます。

Q 9価ワクチンの接種後に副反応はありますか？  
A 9価ワクチンの接種後には、右表の副反応が起こることがあります。接種後に接種部位が赤くなる症状が現れたり、またはワクチンを受けた接種部位の皮膚がむずかしくなることがあります。

**あなたと関係のある“がん”があります**

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,000人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が増加傾向にあります。患者さん200名から40歳代までのがんの診療で子宮を失ってしまう状態（摘出）が増えてきました。患者さん1,000人います。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡原因は、子宮頸がんは1位です。
- HPVの感染をきっかけとして、母体の子宮頸がんを発症する期間が短縮されていますが、ワクチン接種によるHPV感染もありません。子宮頸がんを早期に発見し治療すれば、約20歳以上から、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

厚生労働省

9価HPVワクチン接種のお知らせ  
(キャッチアップ版)

## <既存リーフレット（改訂版）>

概要版  
詳しく知りたい方への情報をお知らせします  
令和5(2023)年4月より  
**小学校6年～高校1年』の女の子と  
保護者の方へ大切なお知らせ**

HPVワクチンについて知ってください  
～あなたと関係のある“がん”があります～

厚生労働省

本人・保護者向け概要版  
(ピンク)

詳細版  
詳しく知りたい方への情報をお知らせします  
令和5(2023)年4月より  
**小学校6年～高校1年』の女の子と  
保護者の方へ大切なお知らせ**

HPVワクチンについて知ってください  
～あなたと関係のある“がん”があります～

厚生労働省

本人保護者向け詳細版  
(水色)

HPVワクチンの接種  
令和5(2023)年4月より  
9価の「HPVワクチン」を公費で接種できるようになりました

接種時の注意点  
接種を希望する際のポイント  
接種後に接種部位の皮膚がむずかしくなる場合の対応

厚生労働省

医療従事者版  
(緑)

令和5(2023)年4月より  
**平成9年度生まれ～平成18年度生まれの女性へ  
大切なお知らせ**

HPVワクチンの接種を逃した方に  
接種の機会をご提供します

厚生労働省

キャッチアップ版  
(紫色)



URL : <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/leaflet.html>

# 厚生労働省ホームページを通じたHPVワクチンの情報提供

接種対象者や保護者、自治体、医療従事者等へ、厚生労働省ホームページやQ&Aを通じて、情報提供を行っています。9価HPVワクチンに関する情報など、内容は随時更新いたします。



ホーム > 政策について > 保健医療政策 > 健康 > 健康増進政策 > 予防接種政策 > HPVワクチンに関する情報 > HPVワクチン

## 健康・医療 HPVワクチンに関する情報一覧

### ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）とHPVワクチン～

- 二語の方向け基本情報
- よくある質問
- HPVワクチンに関する相談一覧
- 医療機関、自治体向けの情報
- 関連情報

#### 一般の方向け基本情報

##### 病気について

ヒトパピローマウイルス感染症とは  
ヒトパピローマウイルス（HPV）は、性的接触のある女性であれば50%以上が生涯で一度は感染するとされている一般的なウイルスです。子宮頸がんをはじめ、肛門がん、膣がんなどのがんや、尖圭コンジローマ等、多くの病気の発生の原因となります。特に、近年若い女性の子宮頸がん罹患率が増加しています。

HPV感染を防ぐワクチン（HPVワクチン）は、小学校6年～高校1年相当の女子を対象に、定期接種が行われています。

#### 【小学校6年～高校1年相当の女子と保護者の方へ】

＜まずはこちら＞  
小学校6年～高校1年相当の女子と保護者の方へ大切なお知らせ（紙製版）

＜もっと詳しく情報を知りたい方へ＞  
小学校6年～高校1年相当の女子と保護者の方へ大切なお知らせ（リーフレット）

リーフレット（紙製版） [PDF形式: 3.43KB]

リーフレット（紙製版） [PDF形式: 4.04KB]

※HPVワクチンは、平成25（2013）年6月から、接種開始年齢を一時的に差し控えていましたが、令和3（2021）年11月に、専門家の評価に基づきHPVワクチンの接種の再開を差し控えていた状態を終了することができたとされ、令和4（2022）年4月から、他の定期接種と同様に、個別の勧誘を行っています。

#### 【平成9年度生まれ～平成18年度生まれ（※）までの女性の方へ】

平成9年度～平成18年度生まれ（※）まで（誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日）の女性の中に、通常のHPVワクチンの定期接種の対象年齢の届に接種を済ましていない方がいらっしゃいます。また接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供しています。詳しくは、「ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの接種を済ました方」のページをご覧ください。

（※）令和5年4月からは、平成18年度生まれ（誕生日が2006年4月2日～2007年4月1日）の女性もキャッチアップ接種の対象となります。

すべてのリーフレットは、「情報提供資料」のページからご覧いただけます。



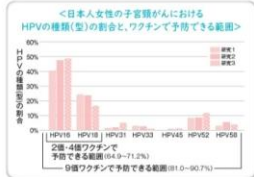
URL : <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>

#### ワクチン接種の効果

HPVの中には子宮頸がんをおこしやすい種類（型）のものが多く、HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。現在、日本国内で使用できるワクチンは、防ぐことができるHPVの種類によって、2価ワクチン（サーバリックス）、4価ワクチン（ガーダシル）、9価ワクチン（シルガード9）の3種類（※）があります。

（※）令和5（2023）年4月から、シルガード9も定期接種の対象として、公表を受けられるようになりました。シルガード9についての詳細は、「9価HPVワクチン（シルガード9）」をご覧ください。

サーバリックスおよびガーダシルは、子宮頸がんをおこしやすい種類であるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。シルガード9は、HPV16型と18型に加え、31型、33型、45型、52型、58型の感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぎます。



※HPV16型～HPV18型は2価HPVワクチン（サーバリックス）、2価・4価・9価ワクチン（ガーダシル）で予防できる。HPV19型～HPV45型は4価・9価ワクチン（シルガード9）で予防できる。HPV46型～HPV58型は9価ワクチン（シルガード9）で予防できる。HPV59型～HPV89型は9価ワクチン（シルガード9）で予防できない。

HPVワクチンを導入することにより、子宮頸がんの発がんリスクを予防する効果が示されています。また、接種が進んでいる一部の国では、子宮頸がんそのものを予防する効果があることもわかっています。

#### 標準的なワクチン接種スケジュール

一定の間隔をあけて、同じワクチンを合計2回または3回接種します。接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数異なります。どのワクチンも接種する場合は、接種する医療機関に相談してください。3種類いずれも、1年以内に規定回数の接種を終えることが望ましいとされています。



- ※1：1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満であれば、3回目の接種が必要となります。
- ※2・3：2回目と3回目の接種をそれぞれ1回目から2か月後と6か月後に行います。2回目と1回目から1か月以上（※2）、3回目と2回目から3か月以上（※3）あけます。
- ※4・5：2回目と3回目の接種をそれぞれ1回目の上旬後と6か月後に行います。2回目と1回目から1か月以上（※4）、3回目と1回目から5か月以上、2回目から2か月以上（※5）あけます。

定期の予防接種は、各市町村が主体となって実施しています。お住まいの市町村における接種方法（いつ・どこで、どのように受けられるかなど）については、市町村の予防接種担当課にお問い合わせください。

#### HPVワクチンの接種を受けた方へ

HPVワクチンの接種を受けた後は、体調に変化がない十分に注意してください。詳しくは、「HPVワクチンを受けたお子様と保護者の方へ」をご覧ください。

#### よくあるご質問

##### Q&A

##### HPVワクチンに関するQ&A

##### 9価HPVワクチンについて

9価HPVワクチン（シルガード9）について

##### キャッチアップ接種について

HPVワクチンの接種を済ました方へキャッチアップ接種のご案内

#### HPVワクチンに関する相談先一覧

HPVワクチンに関してのご相談は以下をご参照ください。

- 接種後に、健康に異常があるとき  
まずは、接種を受けた医師、かかりつけの医師にご相談ください。  
各都府県において、「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の相談に係る協力医療機関」を運営しています。協力医療機関の受診については、接種を受けた医師またはかかりつけの医師にご相談ください。
- 不妊や妊娠があるとき、困ったことがあるとき  
各都府県において、産婦人科と新薬開発の1箇所ずつ「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状に対する相談窓口」を設けています。
- HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談  
「感染症・予防接種相談窓口」では、HPVワクチンを含む、予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談にお答えします。  
※令和5年4月1日から電話受付が変更になりました。  
電話番号：0120-331-453  
受付時間：平日9時～17時（土曜、日曜、年末年始は除く）
- 行政に関するご意見、ご質問は受け付けておりません。  
※相談窓口は、厚生労働省が業務委託している外部の医療機関により運営されています。
- 予防接種による健康被害救済に関する相談  
お住まいの市町村の予防接種担当課に相談してください。  
HPVワクチンを含むワクチン全体の健康被害救済制度については、「予防接種健康被害救済制度」のページをご覧ください。

#### 医療機関、自治体向けの情報

##### 医療従事者の方へ

※HPVワクチンに関しての情報をもとめたリーフレットがあります。詳しくは、「医療従事者の方向けリーフレット」やその併発資料をご覧ください。

※HPVワクチン接種後に生じた症状について、患者より身元が地域で適切な診療を提供するため、各都府県において、「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の相談に係る協力医療機関」を運営しています。

※各都府県において、接種率が接種後に生じた症状で困ったときの相談窓口（ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状に対する相談窓口）を設けています。

##### 情報提供資料

HPVワクチンに関するすべてのリーフレットをご覧いただけます。

##### 関連情報

- 医療従事者向け「ヒトパピローマウイルス感染症 感染症 エクスプレス」
- 厚生労働省
- 厚生労働省 予防接種課

感染症情報をお届けするメールマガジンです。登録は以下URLの「情報登録」ボタンから、無料でご利用できます。

- <http://kansenshoumaga.mhlw.go.jp/>
- ※ 紙製版はこちら [PDF形式: 373KB]